

# 全国協議会 ニュース

2019年11月1日発行 第329号

発行所：特定非営利活動法人  
全国骨髓バンク推進連絡協議会

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階  
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365  
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）  
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

## 一例目があったから今がある 非血縁者間移植から 30 年を迎えて

1989年9月13日(水)、名古屋第一赤十字病院で日本初の成人非血縁者間骨髓移植が実施されました。東海骨髓バンクが設立し、ドナー登録者が400人を超えたころの事でした。そして今年、日本初の移植者・提供者が揃って元気に30周年を迎えられました。



### 非血縁者間骨髄移植 第一例後 30 年を記念して

9月15日(日)「非血縁者間骨髄移植第一例30周年記念パーティー」を開催しました。日本に民間の骨髓バンク「東海骨髓バンク」が設立されて、第一号の移植が行われ30年が経過したことを記念し、名古屋骨髓献血希望者を募る会の第一回シンポジウムが開催された、思い出いっぱいの「名古屋大学医学部 鶴友会館2階会議室」にて行いました。非血縁者間骨髄移植を受けた橋本和浩さん、提供者の田中重勝さんのお二人も揃ってご出席。

一例目があったから今がある…。改めてお二人のお姿に「感動」の時間でした。会場には約70名が集合。当時の患者、患者家族、医療者、マスコミ関係者、ボランティア、そして現在あいちの会で活動中の患者やボランティアも参加し、あっという間の2時間でした。30年が経過しても会場内の想いは30年前と同じ。患者さんのお力

になりたい、みんな元気になってほしいという気持ちが伝わってきました。

30年前様々な事柄を乗り越え、社会の理解を得て東海骨髓バンクは公的骨髓バンクへと引き継がれ、今や50万人を超える提供希望者が登録する日本骨髓バンクとなりました。しかしまだ移植を受けることが出来ない患者さんが多くいらっしゃいます。全ての患者さんに移植の「チャンス」が届くことを改めて願った一日でした。

(あいち骨髓バンクを支援する会  
水谷久美)

### 30周年記念パーティーに 参加して

当初の反対に対して、死んでも誰かの体の中で私が生き続けることになるのだと説得して30年です。提供したのが9月13日であったことから、9月15日の日曜日に30周年記念パーティーを行っていただきました。こうしたことが出来るのも、二人の命が輝き続けているからこそであり、日々の

健康に感謝するとともに、胸が詰まる思いでした。

記念日に発行された新聞には、骨髄移植後は平坦な道のりではなく、険しい山が立ちちはだかったようですが、それらを克服して今日にいたったと記載されています。

患者さんがいたからこそ、命を提供することを体験することができ、さらに30年を過ごすことが出来たことに、改めて患者さんに「ありがとう」と御礼を申しました。

また、私から採取された1リットルの骨髓液を、緊張し、熱い思いで運んでいただいた様子をお話いただくなど、初めて伺うことが多く、沢山の方々に支えていただいたプロジェクトであったと改めて実感をしたところです。今後とも、患者さんの命につながる骨髓バンクの発展に寄与してまいります。よろしく願います。

(田中重勝)



田中重勝さん(左) 橋本和浩さん

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

### 骨髄バンク NOW

《MONTHLY JMDP(10月15日発行)より抜粋》

#### ■日本骨髓バンクの現状(2019年9月末現在)

	8月	9月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,668	3,937	523,108	806,616
患者登録者数	255	197	1,963	57,604
移植例数	107	88	-	23,628

#### ■9月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/1,300人、献血併行型集団登録会/2,520人、集団登録会/3人、その他/114人

#### ■9月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 5,394人/20代 80,563人/30代 139,330人  
40代 222,746人/50代 75,075人

#### ■9月の20歳未満の登録者248人

■9月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：808件

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

## 骨髄バンク推進全国大会 2019 in 長野 開催

世界骨髄バンクドナーデーに合わせて、9月21日(土)「骨髄バンク推進全国大会 2019 in 長野」が長野市のJA長野県ビル・アクティールホールで開催されました。

式典は主催者挨拶、来賓挨拶、感謝状贈呈に引き続き、医療講演では植木俊充先生(長野赤十字病院 血液内科 副部長)がスライドを使い、担当された患者さんの経過を説明、同種移植の経過や、血縁ドナー不在の場合の選択肢等、とても解りやすく解説されました。

「ドナー登録者数全国ワーストからの脱出作戦会議！」では地元のボラン

ティア団体である骨髄バンク長野 ひまわりの会代表笠原千夏子さん・骨髄提供者の俳優木下ほうかさん・移植経験者の池谷有紗さん・諏訪市長金子ゆかりさんが登壇し、移植経験者の立場、提供経験者の立場、行政としてのドナー支援を発表されました。

池谷さんは大学生の時発症し、家族・仲間の応援によって乗り越えたこと、木下さんは骨髄提供は意外と簡単に痛くなかったと話されていました。

大会終了後は近隣の居酒屋に場所を移し、ひまわりの会の皆さんと全国から集まったボランティアとが日頃の活動を語り合いました。(山村詔一郎)



### 長野県のドナーさんが 全国の患者さんを救うために！

「骨髄バンク推進全国大会 2019 in 長野」が無事に終了しました。これも関係者の皆様、そして全国から参加してくれた皆様のおかげです。改めて感謝申し上げます。

私は全国大会には参加した事がなく、全く様子も分からないまま半年前に「次の全国大会は長野で…」と言われました。長野県は今までは説明員も居なくて、活動していませんでした。そこに私が現れ注目されていたのでいつか近いうちに全国大会などの開催地に選ばれると予想はしていましたが、まさかこんなに早く開催されるとは！私はこれはチャンスだと思い有難い話だと思いました。

長野県は対象人口千人当たりのドナー登録数全国最下位！ピンチをチャンスに変える絶好の場にしようと心に

強く決めました。骨髄バンクの担当者やひまわりの会のメンバーと何回も打ち合わせをし、Tシャツを揃え、説明員の紹介動画を作成し、準備は本当に大変でしたがメンバーが支えてくれて当日を迎える事が出来ました。

式典での感謝状贈呈には私が感謝している人を選びました。長野県初になる行政によるドナー助成金制度導入を諏訪市に一般質問し要望してくれた諏訪湖ライオンズクラブ様、行政にも要望するきっかけを作ってくれた公明党の皆様。他、ライオンズクラブ様です。皆様私の講演を聞いてくれてここまで協力してくれたのです。感謝しかなかったです。私達ひまわりの会も感



謝状を頂きました。参加メンバー全員で登壇出来て良かったです。

講演では私も移植経験を話しました。見た目では元気な私。「本当に病気だったんだね！」との声もありました。全てを話せる場を設けていただき良かったです。

そして、今回のメインでもあるシンポジウム。木下ほうかさん、諏訪市長金子ゆかりさん、長野市保健所所長小林良清さん、長野朝日放送郡司勝己さん、移植経験者池谷有紗さん、ひまわりの会説明員竹内純さん、そして私笠原千夏子の7人での「ドナー登録者数全国ワーストからの脱出作戦会議！」長野県はまだどの行政もドナー登録助成金制度を導入していなかったためドナー登録できる環境ではありませんでした。ワーストになる原因は分かっていたので、ではそこをどう解決していくかを話し合いました。物事にはどうしても順番がつかないので長野県は最下位でしたが、そこは全く気にはしていません。これからは長野県のドナーさんが全国の患者さんを助けていく、そして一人でも多くの人たちに骨髄バンクを知ってもらうように今後とも皆で伝えていくことを大切に頑張っていこうと改めて強く心に決めシンポジウムを終えました。

どの県が登録数最下位とかは問題ではありません。全国のボランティア仲間たちでどうすれば登録件数が増えるのか、どうすれば周知が出来るのか、そんな情報を交換し合い全国全ての登録数が同じになるように全国全てのボランティア団体で力を合わせて頑張っていきましょう！

皆様のお蔭で全国大会は大成功だったと思います。ご協力ありがとうございました。

今後とも一人でも多くの笑顔を増やす為に長野県も頑張っていきますので引き続き応援のほど宜しくお願い致します。(ひまわりの会 笠原千夏子)



県主催説明員養成研修会が  
開催される



去る10月23日(水)、徳島県主催によるドナー登録説明員の養成講座が行われました。徳島では養成講座をこれまで何度か実施してきたものの、実働人数が十分確保されず、ドナー登録拡大に結びついていませんでした。説明員の増員が必要であることを、県が設置している学識経験者やボランティア等を構成員とする徳島県骨髄バンク推進協議会で度々問題提議したところ、県が保健所職員の研修を兼ねて養成講座を主催することとなり、関係団体への呼びかけやマスコミ広報など担当者の努力が実って14名もの参加をいただきました。

講師は地区普及広報委員でもある池

田が務めました。説明業務の手順やポイントなど皆さん最後まで真剣に聞いて下さり、次の実地研修に向けて手ごたえを感じることができました。今回は2年ぶりの養成講座開催となりましたが、提供ドナーやアクティブシニア層の方など頼もしい参加もあり、今までにない熱気がありました。マスコミに取り上げていただいた影響が大きかったと思います。

一方で、若年層などへの普及啓発やAYA世代患者の妊孕性温存治療への支援に向けた活動にも関係団体と連携して今後取り組んでいきたいと思っています。

(とくしま骨髄バンクを支援する会  
池田良一)

「お手紙交換制度」  
ワーキンググループを設置

日本骨髄バンクでは患者さんとドナーさんをつなぐお手紙の交換について以下の理由で見直しの検討を始めています。

< MONTHLY JMDP 2019年10月15日号より >

骨髄バンクを介した移植・採取後、1年以内に2回まで患者さんとドナー

さんはお手紙のやりとりをすることができます。移植患者さん・ドナーさん双方の匿名性やプライバシー保護の観点から、SNSなどへのお手紙の公開を控えていただくよう、ご協力をお願いしてまいりました。しかし、近年ソーシャルメディアの普及により、誰もがネットワークで情報発信可能になり、いただいたお手紙の画像が、筆跡や内容が読み取れる形でSNS等に掲載されたり、そのままテレビで紹介されたりするケースが増えています。

これにより移植患者さん・ドナーさんの匿名性が維持できなくなる可能性が生じます。万が一、両者が特定されてしまうと骨髄バンク事業の根幹である「提供の無償性」「提供の任意性」<sup>※</sup>が担保できなくなります。

そこで当法人では、公平・公正な事業運営のためワーキンググループを設置し、「お手紙交換制度」のあり方や運用方法等についての見直しを開始しました。検討結果は、随時ご報告させていただきます。

(※「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」第3条2項「移植に用いる造血幹細胞の提供は、任意にされたものでなければならない。」に基づく)

雨のグリーンリボン  
ランニングフェスティバル

10月14日(月:体育の日)駒沢オリンピック公園陸上競技場(東京都世田谷区)で今年で14回目となる、2019グリーンリボンランニングフェスティバル(NPO法人日本移植者協議会、東京新聞・東京中日スポーツなど主催)が開催されました。移植を受けたランナー、一般ランナーなどが一緒に走り、相互理解を深めるイベント



です。

台風19号が猛威を振るい、開催が危ぶまれる中、台風一過の翌日の雨!という中でのイベントでした。

協議会枠からの参加は10名の女性ランナー1名と、42.195kmリレーに「骨髄バンク応援隊」「骨髄東京走り屋軍団」「BMT神奈川」の3チームが出走しました。ランナーもプラカードを持っての応援団も雨に濡れながらの参加となりました。

「骨髄バンク」のタスキをかけたラ



ンナーは我々以外にも沢山おり、骨髄バンクを知っていただくよい機会になりました。今年はスタンプラリーが行われ、日本移植者協議会・日本臓器移植ネットワークと全国協議会のブースをラリーポイントとして、親子を中心にたくさんの方々に立ち寄っていただきました。ブースには「骨髄移植を受けてからマラソンを始めました」という方も来てくださいました。年々大きくなる大会に移植医療への理解が進んでほしいと願います。



各地のたより

各地のたよりを写真添えてお寄せください。

秋田

名物は北限の桃  
「かづの元気フェスタ」



猛暑や台風で翻弄された今年の初秋、秋田の北に位置している鹿角市で毎年行われている「かづの元気フェスタ」に参加しました。

9月15日(日)鹿角市役所周辺の広域交流センターや保健センターなど公共の施設が集中してるところで、農業関係、建築業などの産業祭や障がい者団体や福祉関係のイベント、献血と骨髄バンク登録、子どもたちや各種サークルの舞台発表など盛りだくさんの行事が行われました。

毎年、患者さんのご遺族で熱心に活動してくださる会員さんが、お友達と美味しいおやつを用意して待っていてくださるので、事務局からは3時間以上かかるのですが、頑張ってお早起きして行きます。

少子高齢化率全国一位の秋田県でも特にそれが顕著な県北部において、鹿角市の子どもが全員来ているのではないかと思うくらい、大勢の子どもと若いご両親が集まって賑わっています。献血と骨髄バンクの登録を呼びかけるのですが、毎年参加しているせいか、「登録しています」とおっしゃる方が非常に多く、ありがとうございますの大合唱です。

骨髄バンクの登録だけを考えると新たなターゲットを求めることも必要ですが、既に登録をしてくださっている方と顔を合わせて情報をブラッシュアップする事も重要ですので良い機会をいただいています。

運転免許証を返上するまでは頑張ってお参加しようと思います。

(秋田県骨髄提供者を募る会 菅早苗)

福岡

サカエ会ボウリング大会



10月9日(水)「サカエ会 第7回骨髄バンクチャリティーボウリング大会」が飯塚第一ボウル(福岡県飯塚市)で開催され、福岡在住の田中幸一元理事の仲介で寄付の贈呈式に行きました。

NPO法人サカエ会様はサカエ住宅(伊藤栄一代表取締役)のお取引様を中心メンバーとして社会貢献され、チャリティーボウリング大会もその一環です。

大会には96名が参加され、参加費の一部と募金箱に寄付をいただき、過去最高額の寄付金162,561円頂戴しました。

式典では骨髄バンクの説明・必要性和御礼を申し上げました。

今後も引続き全国骨髄バンク推進連絡協議会にご支援いただけるとの心強いお言葉を頂戴しました。

(山村詔一郎)

賛助会員の皆さま紹介(敬称略)

【一般賛助会員】

株式会社 相岡組 = 岐阜

基金給付を受けた方からのメッセージ

志村大輔基金(精子保存)

先日は、給付申請につきまして回答をいただきありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

息子は17歳で今年の6月28日から大学病院に入院しています。急性のリンパ腫の為、即日入院でした。今は抗がん剤治療の最中で無菌病棟に居ります。

優秀でお人柄の良い担当医に恵まれ、先生方の経験と知識を頂戴し、また、看護師の方々の日々のお世話に助けられ、息子は心身ともにひどく苦しむことも無く治療に挑んでいます。順調にいればこの年末は退院できるかもしれません。

精子の保存につきましては、大変な費用がかかりますところを志村大輔基金に手助けいただけますこと、温かいご親切をいただけますことを心よりうれしく思い、深く感謝申し上げます。大変お世話になります。重ね重ねお礼申し上げます。(関西地方在住)

モノをキモチにかえる新しい応援のかたち

ブックオフコーポレーションのクラウドファンディング「キモチと。」を通じて、本やDVDなどを送って私たちの活動をご支援下さい。

ブックオフオンラインのサイトから簡単にお申込みでき、ご支援の結果もご自身で確認いただけます(会員登録が必要です)。ご支援下さった方には感謝のメールをお送りします。

心からのご寄付に感謝申し上げます ● 9月21日～10月20日(敬称略)

●一般 NPO法人サカエ会 現金 162,561円	●白血病患者支援基金 匿名 現金 20,000円	五島うどん 浩ちゃん 現金 1,720円
菊水酒造株式会社 現金 500,000円	●募金箱 株式会社クスリのアオキ 現金 716,031円	磯屋食堂 現金 9,309円
ブックオフコーポレーション 株式会社 現金 393円	株式会社 マルト商事 現金 247,967円	あんがいおまる一座 現金 1,622円
田中 重勝 現金 12,812円	北越ケーズ 現金 140,347円	スナック シーサイド 現金 3,581円
福原 卓也 現金 5,000円	鎌倉屋 現金 4,563円	●つながる募金 現金 7,022円
永利 義久 現金 50,000円	高田商事株式会社 現金 2,000円	●キモチと。 現金 9,142円
藤波 敬子 現金 10,000円	有限会社カワシマ設備工業 現金 3,595円	●高島屋友の会 現金 180,750円
塩谷 泰人 現金 1,000円		
匿名 現金 3,000円		

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754 普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会